

サザン協理事会及び第1部会の意見交換会

日時：8月22日（水）16:30～18:15

場所：東風平農村環境改善センター

出席者

理事会

金城豊明	大城英和	中村信吉	神谷信吉
島袋賢栄	古謝景春	川平善範	大城純孝
古堅國雄	又吉忍夫	新垣正祐(欠)	城間信三

第1部会

赤嶺要善	與那嶺紘也	伊集守和	津嘉山斉
宮平正和	上田規子	川井義喜	大城順子
大城秀雄	城間精善	知名定一	照屋義実
山口 修	諸見里米子		

(事務局)

西原町の新垣正祐町長が別件公務のため出席出来ません。西原町の副長が出席予定です。それではサザン協会長の古堅國雄と那原町長に冒頭のご挨拶を宜しくお願い致します。

(会長)

みなさんこんにちは。第1部会の皆さんにとりましては、これまでも何回も精力的に委員会を開いて頂いて、専門的な分野から議論を進めて頂いていることに対しまして、心から敬意を表し感謝を申し上げたいと思います。本日、第1部会の会議の中で、諮問しております処理方式についてのある程度の取りまとめが出来たとの報告を受けました。第1部会の照屋義実会長からの中間報告をお願い申し上げたいと思います。それと、合同会議という仰々しい名称であるが、ごみ処理施設の建設については長年にわたり多くの方の協力と努力、また多額の費用も費やしてきたが、困難を伴う作業ということは申し上げるまでもない。今回は力を合わせて何が何でも建設に取り付ける方向で努力したい。また、どういう方々が関わっているのか、自治体の首長、議長、一部

事務組合の議長含めて本日参加しておられる理事のみなさんと第1部会の皆さんの顔合わせという目的もある。ここで深く掘り下げた議論をするというよりは、皆さんの方から各構成自治体に対する要望がございましたらと思います。それを私どもは真摯に受け止め、可能な限り努力するつもりであります。単に第1部会で結論をされた後に報告を受けて、理事会を開くというだけでなく、この事業を心を一つにして取り組んでいくという意味合いでも今日の合同会議を主催しました。全員で建設実現を成し遂げる上でご協力をお願いしたいと思います。

(事務局)

それでは先ほど第1部会で議論を進めました点につきまして、部会長から部会長報告を宜しくお願い致します。

(部会長)

委員を拝命して以来何カ月になりますでしょうか。真剣に審議をしてまいり本日で六回目の部会となりました。二度の挫折経験を踏まえて、三度目の失敗は許されないと背水の陣を敷いて問題の解決に役に立つような議論をしようとスタートした。近年のごみ処理施設の建設状況も踏まえてあらゆる角度から処理方式の選定に取りかかると確認をしていました。議論と平行して外部講師を招き「最近の処理技術の動向について」というテーマでレクチャーも受けました。7月初旬に県外の福岡、熊本、宮崎県の6カ所の先進地視察も行ってきた。その議論を踏まえて、行政手続きに沿っていけば8月中には処理方式の選定となっておりましたので「取りまとめをしましょう」と冒頭で提起しました。多少時間は過ぎたが、ほぼ取りまとめに至りました。なお、結論を申し上げる前に附言を呈したい。視察後に第1部会の委員のみなさんから出た意見は概ね三つでした。

①システムについて

可燃・不燃ごみ、飛灰など一括して処理できる施設が必要だ。

②処分場はその目的を明確にして建設するべきである。

③経済情勢を十分に検討、吟味を加えて処理方式は検討すべきである。

色んな角度から意見が出されていた。財政の面から検討を加えていくと後に建設、ランニングコストの面が大きな課題として備わってくるのは当然でありまして、経済的な面から建設を勘案するべきである。

それから、既存の中間処理施設として東部清掃施設組合、島尻消防清掃組合がある。基幹改良を終えたばかりの東部、それを間近に控えている島尻については制約要因になる。この制約問題について今回の選定にどういった形でリン

クしていくのか。この点も慎重に検討していかなければならない。等々の意見が出されました。

・負担軽減の為には組織の統合は必要である。

その延長線上で出てきた話は、糸満市の加入を含めた可能性を再度追求すべきであるという意見であります。これも優れて経済合理性を考えれば評価できる意見ではないか。これらは大方一致した意見であります。倉浜との関係で四年間と期限が制限され、時間的な余裕がない訳であり、首長の決断、あるいは議会の皆さんの大局的なご判断が必要であり、第1部会が結論を先延ばしにするわけにはいかないという事で今日は改めて勉強してきた成果に沿って、

ケース①被覆型最終処分場

ケース②被覆型最終処分場+灰溶融施設

ケース③ガス化溶融施設

これらについての考察を行った。③については現代科学の最新技術を駆使してごみ問題の解決を図るという事であるが、ただ問題は巨額の費用が伴うので経済合理性な面から勘案すると③をすぐに採用するのは躊躇する点がある。

などなど色々な意見が出てきた。経済合理性から考えると最終処分場がベターである。しかし、旧南廃協は最終処分場で頓挫している。各ケースそれぞれに一長一短有り、利害特徴を考えますと、帯に短し、たすきに長し、で極めて高度な政治判断が必要である。第1部会が一つの方式に絞るというあまりにも責任が大きすぎる。それならば、三つの方式に考察を加えた部分をそのまま理事会に送った方がいいだろうという結論に至った。三方式の考察及び評価について理事会の方で最終的な選定、決定をして頂きたい。

(事務局)

ありがとうございました。委員長報告がございましたので、これから意見交換をしてまいりたいと思いますが、理事である古堅会長に進行をお願いしたいと思います。

(会長)

議事進行をつとめたいと思います。先ほど第1部会の部会長から中間報告がありました。専門の方々を交えてあらゆる角度から議論を掘り下げた経過がよく理解できた。色々な政治的要素まで含めての最終決断については、皆様のご意見がたくさん出ていると思うのでこれらをしっかり受け止めて最終結論に結びつけたい。処理方式については第1部会が計六回にわたり議論を重ねてきたので、この場で再度議論することは避けたい。構成自治体の首長、議長のみなさんが参加しているので、ご意見、ご要望があれば意見交換の場にしたい。

(部会委員)

処理方式はガス化溶融方式に決定されるのではと思うが、視察先のガス化溶融方式の施設では、保証期間が過ぎると億単位の消耗品、修理費がかかるという問題点もあった。その点も良く考慮して下さい。仮にガス化溶融方式が採用されるならば、全国にある施設のデータを参考にして欲しい。応札条件を受け入れた業者を選定したという事例も参考にして欲しい。ガス化溶融炉と灰溶融施設の歴史は浅い、環境関係の専門家の講演も開催して参考にして欲しい。

(会 長)

貴重なご提言ありがとうございました。建設費も莫大な財源を伴うはずである。ランニングコストも半永久的に負担しなければならない。あらゆる角度から慎重に検討されるべきである。そういう点では焼却されるごみがどの程度の量になるのか、それに応じた施設規模がどれくらいになるのか、また糸満市・豊見城市清掃施設組合がサザン協と今後どのように関わっていくのかを含めて慎重に審議していきたい。

(部会委員)

本日は首長、議長の皆さん、各清掃組合の議長さんとの意見交換会で大きな進展があるのではと期待している。まず、広域で取り組めるごみ減量は何かを提案したい。様々な行政施設やそれらが主催するイベントが増えている。すぐに来ることはその部分から出るごみの量を減らすこと。例えば、ジュースカップの使用中止やマイバック運動。これはサザン協で統一して広報活動の中で取り組んで欲しい。今後、行政のごみ量は増加の一途である。市民は行政がどのくらいのごみ量を出しているのかわからない。一般・事業系・行政のごみを分別して分析すれば、どこから減量に取り組めばよいのかがはっきりする。一般廃棄物は人口割りで算出しているはずだが、減少しているのは確かだ。市民が明確に判断できるような分別を望む。現在は、在宅介護で医療ごみが一般廃棄物に混じっている。条例で定められた自治体もあるが、まだのところは早めに取り組んで欲しい。その出し方を市民に対して丁寧な説明が出来るシステム作りに努力して欲しい。それを南部広域でやれば安心してごみ処理ができるのではないか。

(理 事)

一番大事な視点だと考えている。我々は当たり前に出てくるごみを処理するという視点で処理方式を検討している。むしろより一歩進んでごみの減量化に

取り組んでいかなければと考えている。資源に再利用できるものを安易に燃やしてしまっている現状だ。この二点を平行して進めることが大事だ。ごみは無料で処理できるという認識がごみ分別の際の不注意を招いている。この点が行政の課題である。南城市もごみ減量化計画を策定中である。各々の構成市町も住民を挙げての減量化に取り組まなければ、施設の短命化、無駄なコストの流失につながるという意識を持って欲しい。是非皆さんの力を貸して欲しい。

(会 長)

ありがとうございました。今ありましたように、各自治体が住民の意識高揚、啓蒙に粘り強く取り組んでいくことが大事である。理想はごみゼロだが、そうもいかない。行政施設、各家庭のごみ減量を同時並行で減量化に努めるべきである。

(理 事)

ごみ問題に携わる以前は、家内のごみの捨て方を見て驚いた。生ゴミを直接ごみ箱に入れていた。低温のものを焼却するにはより大きなエネルギーを要する。現在では処理するバケツを設置して、生ゴミがたまったら畑で利用している。一家庭の取り組みだが、各住民が取り組むことが大切である。

(会 長)

他に意見、提言はありますか。

(部会委員)

溶融炉方式を採用するなら燃料を「灯油または重油方式」にするべきではない。浦添クリーンセンターの灰溶融施設では燃料に灯油方式を採用している。灯油は焼却灰と同じ量が必要とされる。人口11万5千に対して一日でドラム缶で30缶が必要である。最近の原料の高騰により年間6千万だった経費が1億円を超えたそう。それで値段が安く質の良くないA重油燃料に替えたそう。先進地視察の際、同じ燃料方式を採用している有明行政組合の職員に灯油からA重油への変更の際して意見を伺うと、「環境に良くない」と、顔をしかめていた。石油の燃料は高騰を続けている、コークスにしても質の良くないものに変更していくことが懸念される。発電方式はほとんど燃料費がかからないので1～2億は安くつくだろう。何とか糸満市を説得する方向で考えて下さい。

(会 長)

ありがとうございました。第1部会の大多数の方から糸満市の再加入の提言

を受けて胸が熱くなった。半年間熟慮したが、「南部は一つ」のもとで糸満市とは誠意を持って接触したいと考えている。お互い歩み寄る方法はないものかと思案しているが、その方向に向けて行動に移したい。

(部会委員)

私は県の一般廃棄物の指導も経験がある。その時、県から10年ぐらい指導して欲しいと要請されたが、3年後には予算が無いということで立ち消えになった。後に指導員は県全体で5名の状態と知ることになり、行政側に不信を抱くきっかけとなった。サザン協の問題が叫ばれて久しいが、各議会でこの問題を質問した議員が一体何名いるのか教えて欲しい。

それと、ごみの捨て方に関してだが、私の居住地区の豊見城にも糸満市のごみが捨てられる。ごみ収集の際に担当の方に回収しないよう要請して、ある程度たまったら行政側に報告した。5年目にして当事者らしき方に目星を付けた。今日はこの場にいるので確認は出来なかったが、来週には判明するのではと思っている。この場で議論を尽くしても住民に伝わらないのが現状だ。もう少しごみ問題の広報に関してアイデアを練って欲しい。

(理事)

行政も市民も意識の改革なしではごみ減量、リサイクルは出来ない。地域だよりでもPRしているが、中にはほとんど目を通さない住民もいる。この状況では行政と住民の心を一つにするのは難しい。この問題は二回の頓挫の経緯がある。行政としては最終的に住民に負担がかかるので認識を強くしなければならない。今後しっかりと取り組んでいくつもりである。

(理事)

ごみ問題は人間の贅沢三昧のなれの果てではないか。そして税金の無駄遣いが多い。この問題に関わって5年になるが、はっきり申し上げてうんざりしているが、気持ちを新たにして取り組むつもりだ。この問題に関してまずはごみを出さない。ごみを出すにしてもそれをリサイクルや資源化につなげることが大事だ。どの方式でごみ処理を行うにしろ、豊見城市内5万4千市民の意識改革が大切だ。この点は議会で話し合われている。道路など公共の場所でも無造作にごみが捨てられている。住民の意識改革のきっかけとなるよう、お互い一度は町に出て行動を起こすことが大切だ。

ごみ問題を突き詰めると、例えば環境問題を提起する後援者を東京から呼んでも、移動の飛行機が環境に負担を掛けないかというところではない。それを考えると、身近な所から意識改革の必要性を感じる。期限がある状況で各自治体

の財政も大変厳しい。なるべく経費のかからない施設建設で南部がごみのない明るい町づくりが実現できればと考えている。

(会 長)

ありがとうございました。お互いごみの減量が大切という点では同じですね。

(理 事)

第1部会の皆さんご苦労様です。私は資源の問題を迫及するべきだと考える。せつかくの資源をただ燃やして捨てるという悪循環がはびこっているのが現状である。教育の中でごみの分別を教えることが大切。幼少の頃に習慣づけることで将来のごみ排出量の削減につながるのではないかと思う。高知県だったと思うが、ごみ処理施設の職員が教育現場に出向いて講師を務めている。そのあたりが重要だと考える。

糸満市の議会の状況は、当八重瀬町の議会でも不安視されている。糸満市の加入促進に向けて、再度の呼びかけを含めて我々は努力する必要があるのではないかと思うが、では糸満市の動向をただ待つだけでいいのかというと、今後は補助金や倉浜との関係も考慮した行動が求められるだろう。

(理 事)

みなさま大変ご苦労様です。第1部会の部会長、部会委員の皆さんからの色々な発言を受けまして、ごもつともなご意見で耳の痛い所であります。議会での一般質問はサザン協問題に集中しており非常に注目度が高い。「これだけの費用を費やしてなぜ建設が進まないのか」「どの方式を採用するのか」「候補地はどこなのか」などが出ている。各首長も適時答弁している。我々議会も真剣に取り組んでいることは重々皆様にお伝えしたい。先ほど町長からあったが、役場の方から担当者を派遣して幼稚園の頃からごみ分別の教育した方が良いというのは非常に参考になった。

(会 長)

幼少の頃からしつけ教育を行うことはごみ減量に向けての大きなポイントではないか。糸満市との問題も積極的に情報交換から始めていこうというのは大事である。

(理 事)

各首長は政治生命を懸けてこの問題に取り組むことをお互い最終確認している。南城市の議会でも取り組んでいる。ごみが大切な資源であるという発想で

出発し、再資源化や安価な処理方法がないものかと模索しているが、我々は行政を預かる者として現実的な処理方法が求められている。この2点を同時並行で進めていくつもりである。

(部会委員)

豊見城市の良い例を紹介します。今年4月に小中学生にごみに関する標語を募集した。各賞を道路の立て看板に使用した。そういった方法もPRの一つである。

(理 事)

本日は住民委員の皆さんが9名、副市町長あわせて14名の委員の方々が数回にわたりご審議をして頂いて、三案に絞った報告が委員長からありました。理事会の決定には委員の皆さんも賛同して頂きたい。ごみ問題に対しては部会の皆さんを始めとして各々がある程度の知識を備えているなという印象である。今後とも第1部会、首長、議長一体となって取り組んで頂いて建設を実現させたい。糸満市の再加入も当然視野に入れたい。

(理 事)

本日は町長の公務が三カ所ありますのでどうしても出席が出来ないと報告がありました。

ごみ問題に関して西原町の議会では全ての議員が一般質問を出した。糸満市の問題について質問している。「南部は一つといいながら、何故糸満市だけを外すのか」という意見があり、町長も苦しい立場もあった。最終的には糸満市が離脱したが、出来るだけ糸満市も含めた形で進んでいけたらと思う。

西原町は事業系のごみも多いが、最近はクリーン指導員のアドバイスにより徐々にごみ排出量も減ってきている。今後も理事会、第1部会と一緒に取り組んでいきたい。南産協の時に西原町も建設候補地に挙がったが、議員、区長も把握しないまま新聞報道が行われた。結果、住民が騒いでしまった経緯がある。今後は理事会、第1部会でしっかり話し合った後に地域に下ろして話し合うのが理想的である。

(理 事)

皆さんこんばんは。与那原町議会は法定上は24名の議員構成だが、財政の都合上14名になっている。14名は少ないのではと思われる所だが、地域に密着した調査活動を行い中身の濃い話し合いを行っており、当局をきりきり舞

いさせる程の行動力である。ごみ問題に関しても積極果敢に取り組んでいる。サザン協の会長は与那原町長だけに、議会としても責任を持って環境整備や町長を支えていきたいと考えている。ごみの減量化は与那原町議会が発信していきたいと考えている。糸満市も反省すべき点は自認していると思うので今度こそ理念と方針をきっちり守りながらやって行きたいと思うので、第1部会の皆さんも自信と勇気と誇りを持って活動して下さい。

(会 長)

一部事務組合の議長さんお二人も参加しているので一つ宜しくお願いします。

(理 事)

今日の報告を受けて、また取り組みを新たに検討していきたいと思しますので宜しくお願い致します。

(理 事)

長時間にわたる議論ご苦労様です。ごみ問題は住民の意識改革が必要だが、理想通りには行かないのが現状だ。今日話し合われた内容は、議会に持ち帰って話し合いたい。

(会 長)

糸満市は現在規約上は生きている形になる。与那原町、西原町、豊見城市、南城市、八重瀬町の各議会で話し合われたと思うが、糸満市の独自プロジェクト、サザン協の位置づけという現状が変則的な形で進んでいる点に疑問の声があるのは承知している。糸満市が南部広域行政組合の規約変更に係る議案を議決しなければ、他の市町で議決された結果は無効である。ごみ問題は一日たりともとどまることは許されない。糸満市にはサザン協の理念を理解して再加入して頂く。まずは糸満市の議会と接点を持ってその辺を整備していく中で議決して頂く。次の段階に進むための手順としては間違っていないと思うのでご理解の程宜しくお願いします。

(部会委員)

私は旧東風平町出身で、報得川沿いに住んでいるが、廃タイヤ・テレビ等のゴミが投げ捨てられ、年々川が汚れ、見る影も無くなっている。数年前の環境庁の調査ではワースト 5 に入る程恥ずかしい所である。その経緯もあって私は第一部会でごみ問題に真剣に取り組んでいる。7月に第1部会のメンバーで九州の宗像、古賀、有明、都城の先進地施設を視察した。その結果、今までごみ

処理場に対するいわゆる 3K のイメージが大きく覆された。これこそ 21 世紀の人類の知恵の結集だと思った。まさに大学の研究機関かと思わせるほどである。ごみの散乱、もうもうと立ち上る黒煙、ひどい悪臭、これらは全く見られない。宮崎県のケースでは周辺に集落が隣接していた。今こそ人類の知恵を結集して立派な最終処分場を造っていかねばと痛感した。

福井県に福井原発がある。放射能漏れの懸念も捨てることは出来ないが、しかし、原発を停止すると大阪の街が一瞬にして真っ暗闇になる。ごみ処理施設も必ず必要だと言うことは明白である。人類の知恵を結集すれば地球環境が良くなる施設建設が可能である。私達第 1 部会の総論の一つは「もっと自治体主導でリーダーシップをとってほしい」という事であり、議会でも積極的に取り上げて、広報活動や時には公聴会も開くなど環境作りに取り組んで欲しい。

(会 長)

貴重なご提言ありがとうございます。

(部会委員)

要望を一つ。意識改革と情報の共有という部分で意見があった。それに関してどういう方法で何を行うかを考えてもらいたい。各市町で首長は職員、市民との情報共有にも努めて欲しい。施設の計画に関してもごみ減量に左右される部分が多い。南城市はごみ処理 10 年計画を策定しているはずだ。この中では、短期、長期にわたる事細かい取り決めがなされている。計画は確実に実施していけば住民の意識改革も進み、ひいてはごみ減量にも繋がり施設規模の縮小に結びつくと思う。クリーン指導に関しても、構成市町に人員確保されているが具体的活動が見受けられない。環境関係は予算の上積みが難しいと思うが計画に基づく実践をして欲しい。それと、サザン協内部にシンクタンクとして専門家を配置してみてもどうか。また、南部の各市町に処分場建設推進協議会を設置して、住民運動的な活動をして欲しい。

(部会長)

町民の一人としての意見であるが、先ず一点目にごみ減量化の提言。我が社では月に一度、夏場は早朝 6 時 30 分、冬場は 7 時 30 分から全社員で国道沿いのごみ拾いを行っている。空き缶、空き瓶、ペットボトルなどは中身が入っていれば破棄して洗浄する。さらに乾かした後に分別して廃棄している。社員教育が主な目的だが、普段から意識付けを行うことで家庭内や各所で活かされてくると思う。「捨てる人は拾わない」「拾う人は捨てない」が原則だと考えるが、その面から考えると市民教育にも生かせる例題となるのではないか。

かつて沖縄サミットの時に、全県挙げて各市町村に協議会を設置してクリーンキャンペーンを行った。一時的にはきれいになったが、その後は又元に戻った。目的をクリーン化に絞った恒常的な行動を伴う組織を設置してみてはどうか。これが住民の意識改革に最も直接的に作用するのではないか。

もう一点は CO2 削減の提言。

最近石垣の白保で珊瑚の白化現象が聞かれる。我々の思いもつかないような所で環境破壊が進んでいる。温暖化を突き詰めていくと CO2 の排出が原因なのではないか。ひいては我々の機種選定も慎重に行われなければならない。とりわけ気になるのが灰溶融炉に関して多大な費用を要する点。CO2 が他の方式よりも数倍排出される点。京都議定書で先進国が批准したレベルに反する懸念がある。首長にはこの辺りも考慮したよりよい選択を期待したい。

(会 長)

部会長どうもありがとうございました。

(部会委員)

南城市長から政治生命を懸けると心強い言葉があつて安心した。住民、行政、議会が一体となって問題解決に取り組まないと大変なことになる。

一点目の質問は、7月10日に理事会があつたが、その後の新聞の記事で「重要な内容が決定された」と報道された。ごみ処理施設だけでなく、し尿、斎場を含めた事業主体を一元化する、それは南部広域行政組合と東部清掃、島尻消防の二つの組合を一元化して事業主体にあたることが確認されたとある。南部広域で取り組むと構成市町は自分たちの所に建設されなければいいと当事者意識の薄れにつながるのか。その経緯を古堅会長に確認したい。

二点目の質問は、議会における質問の内容だが、今回の処分場建設に関する質問があつたかどうか。

(会 長)

二点目の質問、議会でどれくらいごみ問題に関する質問があつたかだが、全てを把握しているわけではないが、糸満市に関しては規約改正に係る部分で否決されたので他の構成市町で議決されたことが全て無効になった。その状態のままずると引き延ばされてきたので、今回、糸満市さんと接点をもつたのは、お互い不利益を被る状態なのできちんとけじめをつけて、次に進める方向で話し合いを行いたいという意味からである。議会でも真剣に議論してもらおう。住民、行政、議会が一体となり、自らのごみは自らの責任で処理するという意識改革を進めたい。議会宣言文をもって議会で宣言して頂けるように進めてい

る。採択されず否決された所もあるようだが、与那原町では又吉議長に体を張って援護してもらい議決を取り付けた。一部退場する議員も見られたが、やはり意気込みを鼓舞する意味では大きな意義があったと思う。各自治体の首長、議長さんにも機運の盛り上がりを期待したい。

一点目の質問に関して、先日の新聞報道記事に関して、第1部会でも話し合われたが、組織の一元化をして、ごみ・し尿・葬祭場（環境関連施設）の広域化に基づいた平等な配置計画を進める方向で基本方針を確認したというつもりであった。南部は一つという意味を込めた話し合いと結論であったが、意図する所と違う報道がなされ、誤解を招いたことをお詫びしたい。

(部会委員)

従来の講演会だけではなく、サザン協主催でCO2削減大会を開催して欲しい。

(会 長)

たくさんのご提言大変ありがとうございます。時間も残り少なくなってきましたので意見交換会はこれで終了とさせていただきます。残りはこの後の懇親会の中で宜しく願います。